

報道関係各位

【国立劇場】鉄道界最大のヒットソング『鉄道唱歌』<sup>てつどうしょうか</sup>  
その誕生までをたどる音楽の旅へ出発進行！  
7月特別企画「鉄道開業 150 年記念 鉄道唱歌 ～明治の音楽と鉄道～」



～汽笛一声新橋を、はや我が汽車は離れたり～

旅は心が躍るもの。古来、旅は数々の詩人の心を浮き立たせ、文芸や歌の名作を生み出してきました。明治5年(1872年)新橋—横浜間で鉄道が開業してから約30年後の明治33年(1900年)に発売された『鉄道唱歌』(第1集「東海道編」)は、親しみやすいメロディーと地名を織り込んだ旅情を誘う歌詞が評判となり、次々と続編が発表され、大正初期までの20年余りで、累計2,000万部を売り上げました。そして、今なお旅を愛する人々が口ずさむ、国民的な歌として親しまれ続けています。あなたの周りにも、全6集・374番のうち「僕は〇番まで歌える！」という強者も多いはず！？

この度、鉄道開業150年記念として、「鉄道」と「旅」をテーマに、日本の伝統音楽と、埋もれた明治時代の音楽を振り返りながら、『鉄道唱歌』の誕生の歴史を紐解く特別企画『鉄道唱歌』を上演いたします。音楽と芸能を通じて「鉄道と旅」の魅力を照らし出す、歌でたどる鉄道史。国立劇場でも類を見ない画期的な企画公演です。これであなたも立派な“ウタ鉄”に！

報道各位におかれましては、本件の皆様への周知にご協力をお願いしますようお願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ】

国立劇場 宣伝課 担当:三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会

 **国立劇場**

## ～鉄道前史～ 明治の寄席で、江戸時代の“旅”を追体験

鉄道がない時代でも(当然ですが)人々は旅をしてきました。

公演前半の舞台は、明治時代の寄席—

まず古今亭駒治が新しく鉄道の魅力を描き出す意欲作『鶯の鳴く街』を口演。さらに、東海道の宿場が巧みに読み込まれた『仮名手本忠臣蔵「道行旅路の嫁入」』を女流義太夫で、さらに俗曲『お江戸日本橋』ほか、洒落のきいた音曲で旅先の趣をご堪能いただけます。

簡単には旅に出ることができなかった江戸時代の人々が、いかに芝居や音楽を通して旅を楽しんでいたか。鉄道がなかった時代の旅の風情をお楽しみいただけます。



床本「仮名手本忠臣蔵 道行旅路の嫁入」



「女義太夫 竹本京子並び京枝」『風俗画報』185号  
明治32年3月10日

## 祝・鉄道開業！ 明治東京の街角で幻の鉄道音楽を



錦絵「東京汐留鉄道館蒸気車待合之図」鉄道博物館蔵

国立劇場 宣伝課 担当:三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会

 **国立劇場**



明治5年(1872年)新橋—横浜間で鉄道が開業します！

新しもの好きの明治の人々は、早速音楽に鉄道を取り入れていきました。

舞台は汽車の汽笛が聞こえてくる、文明開化真っ盛りの東京の街角に移ります。

明治初頭の流行り唄、「梅は咲いたか」の歌詞で有名な『**しょんがえ節**』に鉄道への期待を寄せて歌った作品と、「都々逸」に鉄道を絡めた『**開化都々逸**』では、音曲を通して鉄道開業前後の人々の様子が垣間見られます。

明治半ばに外国の影響を受けた「**明清楽**」が大流行し、そこから派生した**法界節**に汽車旅の情景を歌いこんだ作品が『**レールエー節**』です。一方、同じ頃、政治的な持論を主張する壮士たちが、東海道本線沿線の地名や史跡を読み込んだ**壮士演歌**『**汽車の旅**』を歌いました。

『**レールエー節**』と『**汽車の旅**』は『**鉄道唱歌**』前史を語る上で非常に重要な作品ですが、レコード普及以前の作品ゆえ、初演時と思われる音源が残っておりません。

今回の公演では、この二曲を復活上演いたします。

一世紀以上の時を超えて、幻の鉄道音楽を聴く貴重なチャンスです。



「新ほうかい節」表紙  
明治33年4月(個人蔵)



小栗風葉 著 「恋慕ながし」口絵 国文学研究資料館蔵

## **ついに発売『鉄道唱歌』 第一集～第五集より厳選してお届けします**

明治33年(1900年)に『**鉄道唱歌**』第一集「東海道編」が発売されます。

当時、東海道本線の列車内に楽隊と合唱隊を乗せて、『**鉄道唱歌**』を宣伝しました。舞台では、その模様を復元したステージで、今なお歌い継がれる名曲の魅力に迫ります。

今回は第一集「東海道編」、第二集「山陽・九州編」、第三集「奥州・磐城編」、第四集「北陸編」、第五集「関西・参宮・南海編」の中から、風光明媚な詩情溢れる箇所を厳選してお届けいたします。バリエーション豊かな『**鉄道唱歌**』の世界をお楽しみいただけることでしょう。

国立劇場 宣伝課 担当:三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会

 **国立劇場**



『鉄道唱歌』（復刻版） 累計 2,000 万部売上の大ベストセラーとなりました。

## 鉄道ファン納得のお二人が公演をナビゲート

本公演をナビゲートするのは、鉄道旅行好きで、TV・ラジオなどマスメディアでも大活躍の俳優六角精児<sup>ろっかくせいじ</sup>と、新作鉄道落語で人気の落語家古今亭駒治です。どちらも無類の鉄道好きとしてよく知られています。

鉄道ファンも納得のこのお二人が、明治時代を再現した舞台を縦横に駆け巡ります。

鉄道開業 150 年の本年、鉄道界最大のヒットソング『鉄道唱歌』の誕生までをたどる音楽の旅へ、汽笛一声 出発進行です。



六角精児と古今亭駒治 小劇場ロビーで本公演の打合せ

国立劇場 宣伝課 担当:三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会



## 出演者プロフィール

### ○ご案内・落語 古今亭 駒治（ここんてい こまじ）



1978 年生まれ。2003 年古今亭志ん駒に入門し「駒次」。2007 年二つ目昇進。2010 年共同通信社主催東西落語家コンペティショングランプリ受賞「公園のひかり号」。2013 年交通新聞社新書「鉄道落語」を共著で出版。2017 年しぶやらくご創作落語大賞受賞「10 時打ち」。2018 年古今亭志ん駒死去にともない、古今亭志ん橋に入門。真打昇進「駒治」に改名。

### ○ゲスト 六角 精児（ろっかく せいじ）



1962 年生まれ。1982 年に、高校の演劇部員と劇団「善人会議」（のちに「扉座」）に参加し、活動を続ける。ドラマ『相棒』（00 年～）、『電車男』（05 年）、『カーネーション』（12 年）、映画『十三人の刺客』（10 年）などに出演。09 年には映画『鑑識・米沢守の事件簿』に主演。2015 年から始まった『六角精児の呑み鉄本線・日本旅』（NHK-BS プレミアム）はシリーズ化され、好評を博している。

### ○義太夫 竹本 越孝（たけもと こしこう）



女流義太夫における浄瑠璃語り。1972 年竹本越道に入門し、1974 年上野本牧亭で初舞台。1976 年芸団協新人奨励賞受賞、2000 年重要無形文化財義太夫節（総合指定）認定。2007 年には女流義太夫初の海外素浄瑠璃公演（フランス）を行う。（社）義太夫節保存会理事。国立劇場主催公演への出演多数。後進の育成にも取り組む。

### ○義太夫 鶴澤 寛也（つるざわ かんや）



女流義太夫における三味線奏者。1983 年鶴澤寛八に入門。1993 年より豊澤雛代の預かり弟子、2007 年からは鶴澤清介の預かり弟子となる。2009 年重要無形文化財義太夫節（総合指定）認定。第 25 回伝統文化ポーラ賞奨励賞など受賞多数。自身で「はなやぐらの会」を主宰し、新曲演奏などに積極的に取り組む。



## ○俗曲 桧山うめ吉 (ひやま うめきち)



岡山県倉敷市出身。邦楽を志し上京後、国立劇場の寄席囃子研修生となる。研修期間中には、長唄、清元、端唄、鳴物を学ぶ。卒業後は社団法人落語芸術協会に入会、プロのお囃子連として活動。裏方の三味線弾きとして活動する傍ら、端唄・俗曲を同協会の檜山さくらに師事。俗曲師「桧山うめ吉」として 2000 年寄席の高座に抜擢。久々の若手女流俗曲師の出現としてメディアから注目を集める。

## ○流行り唄・法界節 崎秀五郎(さき しゅうごろう)



民謡・端唄の三味線演奏家。愛知県名古屋市出身。幼少より父、崎五郎に師事。1982 年に本條流家元本條秀太郎に師事し、本條秀五郎の名を許される。2021 年独立。崎秀五郎として活動を始める。民謡歌手の水野詩都子と共に中部地区のうたを歌い継ぐ「東海風流プロジェクト」を立ち上げる。端唄「綱は上意」で最優秀賞、文部科学大臣賞受賞。

## ○流行り唄・法界節 水野詩都子 (みずの しずこ)



愛知県一宮市出身。吉沢浩・木津竹嶺・長谷川久子に全国各地の民謡を、津軽民謡を福土豊秋・二代目成田雲竹女に、津軽三味線を加藤訓に師事。「日本民謡フェスティバル」優勝等、全国大会七冠を達成。20 歳にてメジャーデビュー。民謡の発声を生かし「愛・地球博」公認ソングの作詞・唄を担当。「名古屋をどり」、「日米野球オープニングセレモニー」での歌唱等にて高評価を得る。

## ○法界節 村澤丈児 (むらさわ じょうじ)



和楽器マルチプレイヤー 音楽博士。東京藝術大学卒業。同大学大学院博士後期課程修了。都山流尺八を藤原道山に、生田流箏曲・三絃を池上眞吾に、宮城胡弓・笙を村澤かをりに、宝生流謡曲・仕舞を故三川泉（人間国宝）・武田孝史に、一噌流能管を一噌仙幸（人間国宝）、柳川三味線を中澤眞佐にそれぞれ師事する。コンクールにおける受賞多数。また、海外公演にも積極的に取り組む。

## ○法界節 長谷川将山（はせがわ しょうざん）



尺八奏者。藤原道山に師事。東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。「現代邦楽研究会」や「長谷川将山尺八研究所」を主宰。東京藝術大学教育研究助手。明星大学非常勤講師を務めるとともに、YouTubeでの活動など、尺八音楽の新たな可能性を追求している。近年では、藤井風の作品への参加や、演歌歌手山内恵介のコンサートツアーへの出演など、幅広い活動を展開している。コンクールでの受賞多数。

## ○壮士演歌 岡大介（おか たいすけ）



上梓。

明治大正演歌、昭和歌謡の演奏を中心に活動するシンガーソングライター。カンカラ三線を用いたパフォーマンスで好評を博す。都内を中心にライブハウス、居酒屋での演奏、イベント出演や施設慰問を行い活躍。2007年CD「かんからそんぐ～添田唾然坊・知道を唄う～」、2010年、CD「かんからそんぐⅡ～詩人・有馬敲をうたう～」を発売。2021年「カンカラ鳴らして、政治を「演歌」する」を

## ○壮士演歌 紺野将敬（こんの しょうけい）



打楽器奏者。上京後、ドラムスでの即興演奏を中心に活動するも、地元福島県いわき市で毎年行われる郷土芸能「じゃんがら念仏踊り」に似たサウンドのちんどん太鼓に興味をもつ。その後、ちんどん太鼓を自作し、本格的にちんどん集団「のまど舎」としての活動をスタート。街頭宣伝をはじめ、地域イベント、仮設住宅、老人ホーム、ライブハウスなど、場所を選ばず活動。

## ○東京混声合唱団



1956年に東京藝術大学声楽科の卒業生によって結成されたプロ合唱団。東京、大阪で年4回の定期演奏会の開催に加え、特別演奏会や海外公演、国内外のオーケストラとの共演やオペラへの出演、またテレビなどのメディアへの出演多数。全合唱分野を網羅できる

レパートリーを誇る。文化庁芸術祭大賞、サントリー音楽賞、中島健蔵音楽賞、音楽之友社賞、毎日芸術賞、京都音楽賞など受賞多数。

## 〇ちんどん通信社（東西屋）



1984年、林幸治郎をリーダーとして開業。大阪を地盤に活躍。サービス業と芸能の融合を視野に入れ、“ちんどん屋”の世界に新風を巻き起こす。商店街・スーパーなどの宣伝のみならず、自治体・企業のキャンペーンや展示会、官庁の広報活動、こどもカーニバルや敬老会の出演、学校の観賞会、ライブハウスへなど幅広い場所で活躍。富山・全日本ちんどんコンクールでは最多優勝を誇り、多数の海外公演実績を持つ。

国立劇場 宣伝課 担当:三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会





# 国立劇場 7月特別企画公演

鉄道開業150年記念

**鉄道唱歌** ～明治の音楽と鉄道～

【落語】 鶯の鳴く街

古今亭駒治

【義太夫】 仮名手本忠臣蔵  
道行旅路の嫁入

浄瑠璃＝竹本越孝、竹本土佐子、  
竹本佳之助  
三味線＝鶴澤寛也、鶴澤駒治、鶴澤弥々

【俗曲】 お江戸日本橋 ほか

唄・三味線＝桧山うめ吉

【流行り唄】 しょんがえ節  
開化都々逸 ほか

唄＝水野詩都子／唄・三味線＝崎秀五郎

【法界節】 レールエー節 ほか

唄＝水野詩都子／月琴＝崎秀五郎／  
提琴＝村澤丈児／尺八＝長谷川将山

【壮士演歌】 汽車の旅 ほか

唄ほか＝岡大介／口上＝紺野将敬

【音楽】 鉄道唱歌

第1集 東海道編    第2集 山陽・九州編    第3集 奥州・磐城編  
第4集 北陸編    第5集 関西・参宮・南海編

合唱＝東京混声合唱団／

演奏＝ちんどん通信社

ゲスト＝六角精児（俳優）、ご案内＝古今亭駒治（落語家）

令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト

主催＝独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

協力＝東日本旅客鉄道株式会社



国立劇場 宣伝課 担当：三浦每生（みうらつねお）

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会

 **国立劇場**

## 【公演詳細】

令和4年7月9日(土) 午後3時開演(午後5時40分終演予定) ※休憩あり

国立劇場 小劇場(〒102-8656 千代田区隼町4-1)

【料金】 全席指定 5,000円(学生3,500円)[いずれも税込]

※障害者の方は2割引です。また車椅子用スペースがございます。

【発売日】 電話・インターネット予約開始=6月18日(土) 午前10時

窓口販売開始=6月19日(日) ※窓口販売用に別枠でのお取り置きはございません。

## チケットのお求めは

国立劇場チケットセンター 0570-07-9900

03-3230-3000(一部IP電話等)

【インターネット】

国立劇場チケットセンター

検索

## 国立劇場について



日本の伝統芸能の保存及び振興を目的として昭和41年(1966)に開場。外観は奈良の正倉院の校倉造りを模している。大劇場・小劇場・国立演芸場・伝統芸能情報館を備え、多種多様な日本の伝統芸能を鑑賞できる。初心者や外国人を対象とした解説付きの鑑賞教室も開催している。

所在地:東京都千代田区隼町4-1

03-3265-7411(代表)

<https://www.ntj.jac.go.jp/>

国立劇場 宣伝課 担当:三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: [tsuneo-m@ntj.jac.go.jp](mailto:tsuneo-m@ntj.jac.go.jp)

独立行政法人 日本芸術文化振興会

